

日吉台新聞

HIYOSHIDAI

平成30年3月1日

発行

日吉台学区自治連合会

日吉台学区まちづくり協議会

発行責任者

林 堅 太 郎

編集責任者

村澤 真保呂

題字は

4丁目11-2

梶谷 清苑さん

日吉台学区
個人情報保護方針
取り扱い文書

将来、空き家になる可能性示唆

魅力あるまちづくりめざせ

市調査

大津市住宅課空家対策推進室が昨 autumn 日吉台学区住民300世帯を抽出して行った「空き家利活用に向けた日吉台学区住民意識調査」の結果がまとまり、1月29日の学区空き家対策検討委員会で報告された。調査は、増え続ける学区の空き家発生抑制策の検討と日吉台の今後のまちづくりの方向を探るため市がまちづくりコンサルタン

ト「都市環境研究所三重事務所」の協力を得て実施、回収率48・6%、146世帯から回答を得た。調査によると、回答者の年齢は、「70歳以上」が87人、59・6%と最多、「60歳代」が28・1%の41人。「夫婦だけの世帯」が81世帯、55・5%と学区の高齢化、核家族化社会を現わしている。現在の住まいについて将来空き家になる可能性を複数回答で尋ねたところ「将来にわたり住み続ける」という理由で「空き家にならない」が52件あったのに対し、「子ども（次世代）が遠くに住んでいて帰ってくる予定がない」が45件、「存命中に次世代への相続や維持管理が継続される状況に自信がない」25件「健康面に不安があり、介護サービス付の福祉施設に入る」が15件「体力的にも戸建ての維持管理が大変なので共同住宅に引

ろ「将来にわたり住み続ける」という理由で「空き家にならない」が52件あったのに対し、「子ども（次世代）が遠くに住んでいて帰ってくる予定がない」が45件、「存命中に次世代への相続や維持管理が継続される状況に自信がない」25件「健康面に不安があり、介護サービス付の福祉施設に入る」が15件「体力的にも戸建ての維持管理が大変なので共同住宅に引

越す」が12件もあり、この先もさらに空き家の増加が推測される。調査では、学区が空き家にならない必要なサポート策を聞いてみると「次

世代の定住を促し、住み続けたいまちとなるよう魅力あるまちづくりを進める」が46件「所有者が存命中に住まいを次世代へ適切に引き継ぐための相続対策を進める」が36件「住まいの維持管理や長期不在となる場合に相談や見守り活動などの体制をまちで整える」が35件と、学区の再生を望む意思が強く出ており、現在学区が進める空き家対策の方向性が間違っていないことも明らかにになった。空き家の利活用に関し重要な点を聞いたところ、

また空き家所有者への支援体制として、学区と市が協力して継続的な対応と気軽に安心して相談できる窓口が必要との意見を重要視。利活用方法については、若い人が住みたくなるよう大学や企業の低廉な寮や社宅とし

ての活用や高齢者が安心して暮らせるよう買い物支援の場などに活用させるという回答が多く寄せられていた。調査をまとめた都市環境研究所三重事務所は、魅力あるまちづくりの一環として空き家対策に取

り組むことで地区の課題を魅力に転換、この取り組みを成功させ後に続く市内団地の取り組みモデルになることが重要。取り組みを通じ人材の掘り起こしにつなげまちづくりの担い手を育むことが大切だ、と総括している。

は問題」だとして通常は、市自治協働課職員も出席する市自治連定例会への同職員の出席を拒否して抗議、市民センター見直し計画の撤回を強く求めた。

36支所はすべて残せ！

市自治連、重大決意で市に迫る

支所統合問題

市民センター機能見直しを検討する大津市は、このセンター改革に先駆け、4月から36学区の全支所で臨時、嘱託職員計28人の削減計画を進めて

いることが明らかになった。市は平成32年度を目処に支所を市内10支所に集約するほか、公民館を地元自主運営させる案など、相次ぐ見直し計画

に学区自治連や住民らが反発、市自治連合会（会長・谷正男坂本学区自治連合会会長）も市に対し「36の支所はすべて残せ」と申し入れた。

支所の職員の削減計画については、市は、すでに各支所の市長には通知しているが、「庁内の人事異動、人員配置」だとして直接、影響を受ける住民には非公表。各支所から「日常業務など支所機能が回らなくなる」との不安視する声が市自治連にもあがり、市自治連は「市民生活に直接関わる支所職員の削減について市民や市自治連にこれまで何の協議もないの

この結果、市は、臨時職員28人の削減計画については、当面棚上げ、引き続き雇用を継続とする方針を2月21日召集の臨時支所長会議で明らかにしたが、支所の統廃合問題には、触れなかった。

江若バスまた減便

春のダイヤ改正3月17日実施・最終便も繰り上げ

大津市交通戦略室に入った連絡によると、JR湖西線春のダイヤ改正にあわせ3月17日、江若バス日吉台線で、平日5便減、土、日、祝で2便増便、7便減の最終便繰り上げを伴うダイヤ改正が行われる。最終便の繰り上げは一昨 autumn にも実施されており、また住民の足が削られることになる。同室の発表によると、

平日は、比叡山坂本駅6時37分▽7時13分▽7時38分▽19時3分発の日吉台循環線4便が減便、最終便の同22時47分発市民センター行が廃止され、平日比叡山坂本発の最終便は22時25分に繰り上がり市民センター止めとなる。土、日、祝日は、比叡山坂本駅17時16分▽17時48分▽18時48分▽19時26

分▽20時1分▽20時33分▽最終便の22時1分発の7便がそれぞれ廃止、12時台と14時台にそれぞれ1便増便となる。土、日、祝日のダイヤの最終便は比叡山坂本駅発21時47分に繰り上がり日吉台市民センター止めとなる。江若バスが市に行った説明では、利用者の減少に加えバス乗務員の確保困難を減便の理由にあげ

騒音対策、万全を期せ

湖西道路対策委強く要望

湖西道路4車線化に伴う通過車両による騒音、振動対策などについて、学区自治連特別委、湖西道路対策委員会と国交省・

滋賀国道事務所との間で協議が進められている。昨年10月に対策委を設置して以来、学区側は、騒音対策、振動対策につい

て意見、要望などを滋賀国道事務所へ提起、2月16日、市民センターで開催された協議会で滋賀国道事務所側が回答を寄せた。

学区側の要望と国道工事事務所の回答によると、騒音対策用の遮音壁の高さをより高く、環境基準を上乗せする対策を学区側が求めたのに対し、国は、国の環境基準に基づ

き、必要な対策を行うとした。また、既設の遮音壁の耐用は、老朽化で機能低下の恐れがあることを指摘したのには、施設の状態を5年ごとに点検している。必要であれば、維持、修繕、更新も行うが、今回の工事での一斉更新は考えていない、と答えた。

騒音対策の基準は、湖西道路沿い20㍓未満地域と20㍓以上の地域で基準値が違いますが、20㍓未満の地域であっても基準値の厳しい20㍓以上地域の基準で遮音壁設置などの騒音対策を求めたのに対し、国は環境基準の方針に基づき、必要な対策を実施するとの答えにとどめた。また、工事完成後の基準を超えた場合の対策については、追加の騒音対策工事を実施する、と確約

した。振動対策について国は、4車線化後の振動予測調査では、環境基準は超えない。緊急を要する場合には、適宜対応するとした。

湖西道路対策委としては、回答を受け、改めて学区として要望策の論点を詰め、国側と引き続き交渉を重ねることにしている。



力をあわせきらきらステージ



発表会で熱演する子どもたち（上、左）

日吉台幼稚園児の発表会

子らの熱演に会場は笑顔いっぱい

日吉台幼稚園の子どもたちによる発表会「きらきらステージ」が2月7日、同園遊戯室であり、訪れたお父さんやお母さんら家族、来賓らは、ステージ上で熱演する子どもたちの演技や歌に大いに

にとつては、初の発表会である日、うさぎさんの畑に大きなカブができて、みんなでカブを引っ張り出すことになりました。「うんと」どっこいしょの掛け声に力をあわせカブを引き抜く子どもたちのほえましい光景に会場の保護者らも笑顔がいっぱいに。

4歳児と5歳児は、動物園にいる仲良しのネコとクジャクを動物忍者が助けるストーリー。40分を超える長い子どもたちの手づくり劇だったが子どもたちはお互いに支えあいながら役になりきり幼稚園生活一年間の総決算の発表会を楽しんだ。

な拍手を送っていた。この発表会は、3歳児

な拍手を送っていた。この発表会は、3歳児

お母さんたちの名演技に子どもたちも大喜び



発表会の締めくくりはお母さんたちの劇「シンデレラ」。ママたちのユーモラスな名演技に子どもたちも大喜びしていた。

37年の歴史に終止符

15日、ありがとうの会開催

日吉台幼稚園



37年の歴史に幕を閉じる日吉台幼稚園

開催する。

ありがとうの会では、日吉台幼稚園の卒園児によるパフォーマンスが行われるほか、スライドショーが上映される予定。会場の幼稚園舎が手狭なため、すべての人を式典に招待することはできないが、式典終了後の午後3時以降、思い出の園庭と園舎を一般開放する予定。園舎開放は、16日、19日、20日の午前9時〜午後5時まで行われる。門のところでチャイムを鳴らせば、職員が門を開けてくれる。

園した。同年5月26日、現園舎が完工、年長2組、年少2組で保育が始まった。ピーク時の58年度は、学級数7組、園児数228人を数えたが、学区の高齢化と少子化に伴い園児数は減少、平成29年度は、3歳児保育を加え11人に激減している。

市の幼稚園規模適正化計画で、民間運営による認定こども園に転換されることになり、設置計画が進められ、30年度から現園児は隣接の坂本幼稚園との合同保育となり日吉台幼稚園は事実上の廃園、37年の歴史に終止符を打つことになった。

日吉台幼稚園は、昭和56年4月1日創立、市立坂本幼稚園を仮園舎で開



川崎 典子さん 2丁目

有志らが祝う会

市政功労表彰

崎典子さんの受賞祝賀会が2月10日、同市雄琴のホテルで開かれ、有志らが記念品などを贈り、功績をたたえた。

川崎さんは、坂本在住時代PTA幼稚

の健全育成に貢献、その気さくな性格から子どもたちから「川崎のおばちゃん」と呼ばれ親しまれている。

祝賀会は、田川学日吉中学校長が発起人

き何らかの形で子どもたちとのかかわりは続けてゆきたい」と花束を手に喜びを語った。

ユーモアを交えて称えた。川崎さんは「地域の宝、子どもたちの育成のため一生懸命頑張ってきた。次の任期切れで人権擁護委員は退任しますが、引き続き

「ごちそうさま」を宴席で



30 乾杯後、30分は自席で食事を楽しみましょう。
10 お開きの前の10分は自席に戻って食べ切りましょう。

食品ロス削減のため、宴席での料理を食べ切る運動にご協力を。

ごみ減量と資源再利用推進会議・大津市